

# 女子大生の母娘関係が娘のアイデンティティ確立と 自尊感情に与える影響

秋田大学医学部附属病院

田口 幸歩

秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻

成田 好美

## 要 旨

一見仲が良く見える母娘関係であっても、娘側では母との関係に息苦しさを感じ、心身に問題が生じカウンセリングに訪れるケースがある。青年期の母娘関係は、青年期の発達課題であるアイデンティティの確立および自尊感情に与える影響も大きいとされ、母と娘の緊密な関係は、両者の人格の発達や自立を促進する、あるいは逆に阻むようなネガティブな面ももつといえる。本研究では女子大生を対象とし、母娘関係が青年期の娘のアイデンティティ確立および自尊感情に与える影響を明らかにすることを目的とした。女子看護学生にアンケート調査を実施し150名を分析対象とした。その結果、母娘関係尺度の第一因子「母への信頼・支え」とアイデンティティ尺度との間に弱い正の相関 ( $r=0.21$ ,  $p<0.05$ )、自尊感情尺度との間に弱い正の相関 ( $r=0.21$ ,  $p<0.01$ ) が認められた。母親と別居している者では「母への信頼・支え」とアイデンティティ得点との間に有意な弱い正の相関 ( $r=0.22$ ,  $p<0.05$ )、自尊感情尺度との間に弱い正の相関が認められた ( $r=0.25$ ,  $p<0.05$ )。母親と同居している者では、母娘関係尺度の第四因子「母への依存」と自尊感情尺度に有意な弱い負の相関が認められた ( $r=-0.31$ ,  $p<0.05$ )。母娘間の信頼関係が高く、母を支えたいと強く思っている娘は、アイデンティティ確立と自尊感情の両方において高いことが考えられた。また、母と別居している娘は、アイデンティティ確立、自尊感情が高いことが示唆され、母と同居している娘は母に依存しやすく、有能感や自分への信頼感、自信を得にくいいため、自尊感情が低くなる傾向にあると考えられた。

キーワード：母娘関係、アイデンティティ、自尊感情

## I. はじめに

そっくりな顔をした母と娘と一緒にショッピングを楽しんだり洋服の貸し借りをしたりする姿は友達関係に近く、「一卵性母娘」と呼ばれ<sup>1)</sup>、母娘の親密さが伺える。この様な一卵性母娘とは、母と娘が情緒的・経済的に強い互恵的な関係を結び、親密にする事でお互いに得るものがある支え合いの関係である<sup>1)</sup>。しかし、一見仲が良くて幸せそうに見える母娘関係であっても、娘側では母との関係に息苦しさを感じて心身に問題が生じカウンセリングに訪れるケースが報告されている<sup>2)</sup>。青年期の発達課題にアイデンティティの確立があり、青年期の母娘関係は娘のアイデンティティ確立において重要である<sup>3,4)</sup>。また、母が娘の自尊感情に与える影響

も大きいとされ、同性である母の自分への評価を経由して、自己を評価するという構造が示されている<sup>5)</sup>。このように、母と娘の緊密な関係は、両者の人格発達や自立を促進する方向にも、逆に阻むようなネガティブな方向にも進む可能性がある<sup>6,7)</sup>。そこで本研究では、その実態を明らかにするため女子大生を対象とし、母娘関係が青年期の娘のアイデンティティ確立・自尊感情に与える影響を明らかにすることを目的とした。

## II. 研究方法

### 1. 対象

A大学に在籍する1~4年生の女子看護学生を対象とした。

## 2. 調査期間

2017年4月～6月。

## 3. 調査方法

質問紙表を作成し、講義担当教員の許可を得て、講義終了後に研究内容を説明し、217部を配布した。質問紙は記入後にその場で回収、もしくは留置式回収箱を設置して回収した。

## 4. 質問紙の構成

質問項目は4つに分かれ、対象者の基本属性、母娘関係尺度、ローゼンバーグ自尊感情尺度、アイデンティティ尺度とした。

### 1) 基本属性

基本属性は、性別、年齢、母をイメージできる人がいるか、母親の背景(学歴、職業)、家族形態(母との同別居、核家族の別、家族構成)を問う質問で構成した。

### 2) 母娘関係尺度

母娘関係尺度は、藤原・伊藤<sup>9)</sup>が作成した尺度を用いた。「母への支え(5項目)」「過去の対立・葛藤(6項目)」「母の支配(9項目)」「母への信頼(10項目)」「母への依存(5項目)」の5つの下位尺度からなる35項目の質問について、「全く当てはまらない=1」～「非常に当てはまる=5」の5件法で回答を求めた。尺度の信頼性は $\alpha$ 係数0.78～0.90であり、各因子の内的整合性は高いといえる。

### 3) アイデンティティ尺度

下山が作成した尺度<sup>9)</sup>を用いた。アイデンティティ尺度は、アイデンティティの基礎とアイデンティティの確立の各10項目2因子から構成される。「全く当てはまらない=1」～「非常によく当てはまる=4」の4件法で回答を求める。この尺度は高い $\alpha$ 係数が得られており、信頼性・妥当性が保証されている。

### 4) ローゼンバーグ自尊感情尺度

ローゼンバーグ自尊感情尺度の日本語版(星野訳)<sup>10)</sup>(以下、自尊感情尺度)を用いた。ローゼンバーグ自尊感情尺度の日本語版の信頼性・妥当性は保証されている<sup>11)</sup>。この尺度は10項目で構成されており、逆転項目が5項目含まれている。評定は「はい」「どちらかといえばはい」「どちらかといえばいい」「いいえ」の4段階評定を用いた。得点化は、「はい=4点」～「いいえ=1点」で、逆転項目についてはこの反対にする。10項目による尺度得点の範囲は10～40点である。

## 5. 分析方法

対象者の属性や各尺度について単純集計を行った。

2群間の有意差検定には対応のないt検定を用いた。

3群間ではパラメトリック変数の場合は一元配置分散分析を、ノンパラメトリック変数の場合はクラスカル・ウォリス検定を行った。相関関係は、母娘関係尺度とアイデンティティ尺度の間でピアソンの単相関係数、母娘関係尺度と自尊感情尺度の間でスピアマンの順位相関係数を用いた。因子分析では、主因子分析、Varimax回転法を用いた。統計処理にはSPBS ver 9.6を用い、有意水準5%未満を有意差ありとした。

## 6. 倫理的配慮

対象者には、研究目的、データは本研究以外には使用しないこと、プライバシーを保護し個人が特定されることはないこと、参加は自由意志であること、協力しなくても不利益はないこと、を書面と口頭で説明した。回答は無記名として、質問紙の提出をもって同意とみなした。

## III. 結果

### 1. 対象者の概要

対象者217名にアンケートを配布し、162名より回答があった(回収率74.7%)。そのうち欠損値が多い12名を除いた150名を分析対象とした(有効回答率69.1%)。対象者の平均年齢は19.4±1.6歳だった。対象者の概要を表1に示す。

表1 対象者の属性 (n=150)

項目	人数	(%)
母親の学歴	高校卒	69 (46.0)
	専門学校卒	37 (24.7)
	大学卒	40 (26.7)
	その他	4 (2.6)
母親の職業	専業主婦	30 (20.0)
	正社員	55 (36.7)
	パート	56 (37.3)
	その他	9 (6.0)
母親との同居・別居	同居	51 (34.0)
	別居	99 (66.0)
核家族	あり	122 (81.3)
	なし	28 (18.7)
父親の有無	あり	129 (86.0)
	なし	21 (14.0)
男兄弟の有無	あり	74 (49.3)
	なし	76 (50.7)
姉妹の有無	あり	73 (48.7)
	なし	77 (51.3)

## 2. 母娘関係尺度の検討

母娘関係尺度の因子構造を確認するため、因子分析（主因子法・Varimax 回転）を行い、因子負荷量が 0.4 以上のものを採用した（表 2）。その結果、「24. 母に絶対に許せないと思っていることがある」「25. 母に対して素直になれない」が除外され、33 項目が採用された。因子名は先行研究<sup>8)</sup>を参考に、第一因子を「母への信頼・支え」10 項目、第二因子を「過去の対立・葛藤」6 項目、第三因子を「母の支配」12 項目、第四因子を「母への依存」5 項目として命名した。Cronbach の  $\alpha$  係数は「母への信頼・支え」「過去の対立・葛藤」「母への依存」「母の支配」の順に 0.86, 0.86, 0.77, 0.63 であり、おおよそ信頼性が確認された。

母娘関係得点は平均 106.7 $\pm$ 10.7 点、アイデンティティ確立得点は平均 51.7 $\pm$ 7.5 点、自尊感情得点は平均 25.8 $\pm$ 4.9 点であった。

## 3. 母娘関係と母親の背景および家族形態との関係

(表 3)

母親の同居群と別居群の 2 群間において母娘関係尺度に有意差があるのかを対応のない t 検定によって検討した結果、有意差は認められなかった。その他の項目についても、母娘関係尺度に有意差は認められなかった。

## 4. 母娘関係とアイデンティティ確立および自尊感情との関連

母娘関係尺度とアイデンティティ尺度および自尊感情尺度間における相関係数を算出した結果を表 4 に示す。どちらにおいても有意差は認められなかった。次に、母娘関係尺度の因子毎に、アイデンティティ尺度および自尊感情尺度との間に関連があるのかを、相関係数の算出によって検討した。その結果、母娘関係尺度の第一因子「母への信頼・支え」とアイデンティティ尺度との間に有意な弱い正の相関 ( $r=0.21$ )、自尊感情尺度との間に有意な弱い正の相関 ( $r=0.21$ ) が認められた。

先行研究では、母娘関係尺度の各因子とアイデンティティ尺度・自尊感情尺度との関連性が母親との同居群と別居群との間で有意差がみられている<sup>4)12)</sup>。そこで、再度母と同居している者、母と別居している者の各々で、母娘関係尺度と自尊感情尺度およびアイデンティティ尺度との間で相関係数を算出した。その結果、別居している者では「母への信頼・支え」とアイデンティティ得点との間に有意な弱い正の相関 ( $r=0.22$ )、自尊感情尺度との間に有意な弱い正の相関が認められた ( $r=0.25$ )。同居している者では、母娘関係尺度の第四因子「母への依存」と自尊感情尺度に有意な弱い負の相関が認められた ( $r=-0.31$ )。

表 3 母娘関係と母親の背景および家族形態との比較 (n=150)

項目		母娘関係尺度 平均 $\pm$ 標準偏差	p 値
母親の学歴	高校卒	105.0 $\pm$ 10.3	0.06
	専門学校卒	110.2 $\pm$ 10.7	
	大学卒	106.3 $\pm$ 11.1	
母親の職業	専業主婦	107.0 $\pm$ 12.3	0.70
	正社員	106.7 $\pm$ 10.6	
	パート	107.1 $\pm$ 9.8	
	その他	102.6 $\pm$ 12.5	
母親との同別居	同居	108.0 $\pm$ 11.0	0.29
	別居	106.0 $\pm$ 10.6	
核家族	あり	106.6 $\pm$ 11.3	0.82
	なし	107.0 $\pm$ 8.1	
父親の有無	あり	106.1 $\pm$ 10.2	0.09
	なし	110.3 $\pm$ 12.9	
男兄弟の有無	あり	106.6 $\pm$ 10.6	0.91
	なし	106.8 $\pm$ 10.9	
姉妹の有無	あり	104.9 $\pm$ 12.4	0.06
	なし	108.3 $\pm$ 10.9	

p 値は一元配置分散分析、または対応のない t 検定による

## IV. 考 察

## 1. 母娘関係が娘のアイデンティティ確立、自尊感情に及ぼす影響

母娘関係尺度の第一因子「母への信頼・支え」とアイデンティティ尺度および自尊感情尺度との間に弱い正の相関が認められた。母を信頼する、支えたい気持ちが大きいほど、娘のアイデンティティ確立、自尊感情の程度も大きくなると考えられた。

多くの先行研究<sup>3)13)</sup>で、他者との関係性が青年期のアイデンティティ確立において重要であると実証されており、自己と他者を区別するプロセスを通して自己のイメージが作られ、他者との出会いが独自性を認識する機会として必要であるとされている。娘のアイデンティティの確立には、どのような事態になっても母は自分を受け止めてくれるという安心感が、娘の物事に挑戦する基盤となり、挑戦の場での他者との出会いが、他者の中での自分の位置づけ、持ち味を認識する機会として必要な要素である<sup>3)</sup>。また、他者との関係性の中で悩みや葛藤が生じたとしても、母は話を聞いてくれ、親身に相談に乗ってきてくれた存在の場合、他者に自身の考えや意見を伝え、積極的に関わる心理的な基盤となり、アイデンティティが確立しやすいと考える。

表2 母娘関係尺度の因子分析 (n=150)

質問項目 (*逆点項目)	第一因子	第二因子	第三因子	第四因子	共通性
	母への 信頼・支え	過去の対立 ・葛藤	母の 支配	母への 依存	
	$\alpha=0.86$	$\alpha=0.86$	$\alpha=0.63$	$\alpha=0.77$	
1.何かと母の支えになってあげたい	0.727	-0.152	0.063	-0.17	0.585
2.あれこれと母の世話をしてあげたい	0.649	-0.054	-0.005	-0.255	0.49
3.母の気持ちを理解してあげたい	0.778	-0.078	-0.019	-0.006	0.612
4.できるだけ母のそばに住みたい	0.536	-0.051	-0.193	-0.229	0.38
5.母に期待されると嬉しい	0.448	-0.037	-0.061	-0.14	0.226
23.私の気持ちを理解してくれる	0.671	-0.211	-0.422	-0.017	0.674
26.母の人生に共感を覚えるようになった	0.437	0.078	-0.053	0.043	0.201
27.私の人生のよき理解者だ	0.623	-0.243	-0.371	-0.202	0.625
28.困っていても、相談する気はない*	0.506	-0.179	-0.333	-0.155	0.423
29.なんでも話ができる	0.465	-0.123	-0.351	-0.277	0.432
6.昔は、母とよく意見が衝突した	0.005	0.74	0.209	0.146	0.612
7.以前は、母と言い争いが絶えなかった	-0.086	0.849	0.167	0.156	0.781
8.昔は、母に口答えばかりしていた	-0.046	0.751	-0.057	-0.059	0.573
9.昔は、母と気があわなかった	-0.238	0.653	0.397	0.075	0.646
10.昔は、母がいやでしかたなかった	-0.336	0.56	0.362	0.08	0.564
11.昔、母とほとんど口をきかない時があった	-0.278	0.388	0.298	0.071	0.321
12.私のことに何でも口を出したがる	-0.128	0.229	0.619	0.006	0.452
13.私のことを何でも知りたがる	0.041	0.165	0.532	-0.049	0.314
14.自分の意見を押し付けてくる	-0.262	0.177	0.742	0.038	0.652
15.母の思うようにしないと機嫌が悪い	-0.227	0.161	0.753	0.002	0.645
16.私を手放したがる	0.022	0.074	0.689	-0.071	0.486
17.母のできなかった事や夢を託そうとする	-0.061	0.032	0.709	0.022	0.509
18.私がやるべき事にまで手を出してくる	-0.165	0.045	0.783	0.013	0.642
19.結局、母の言う通りになってしまいやすい	-0.138	-0.054	0.674	-0.256	0.542
20.母は親の言う事を子供が聞くのは当たり前だと思っている	0.031	0.106	0.729	0.058	0.546
21.私の本当の気持ちを分かっている*	0.392	-0.171	-0.601	0.028	0.545
22.母のようにはなりたくない*	0.473	-0.246	-0.53	-0.133	0.583
30.母の顔をうかがう事がある*	0.198	-0.106	-0.562	0.184	0.674
31.母に頼りすぎていると思う	0.041	-0.098	0.006	-0.815	0.676
32.何かにつけ、つい頼ってしまう	0.106	0.017	0.007	-0.814	0.674
33.買い物で、物を選ぶのをよく手伝ってもらう	0.165	-0.031	0.054	-0.469	0.251
34.一緒に買い物にでかけ、物をよく買ってもらう	0.083	-0.109	0.067	-0.574	0.352
35.どんな時も、見捨てないで欲しい	0.312	-0.031	0.066	-0.472	0.325
因子間相関		第二因子	第三因子	第四因子	
	第一因子	-0.226	0.307	0.074	
	第二因子		-0.393	0.353	
	第三因子			-0.18	

因子分析 (主因子法・Varimax 回転による)

表4 母娘関係とアイデンティティおよび自尊感情との相関関係

	n	尺度	母娘関係尺度		第一因子	第二因子	第三因子	第四因子
			合計点	母への 信頼・支え	過去の対立 ・葛藤	母の 支配	母への 依存	
全体	150	アイデンティティ尺度	r	-0.020	0.207*	-0.106	-0.067	-0.122
		自尊感情尺度	rs	0.029	0.210**	-0.126	-0.065	-0.074
別居	99	アイデンティティ尺度	r	-0.050	0.222*	-0.183	-0.170	-0.120
		自尊感情尺度	rs	0.033	0.245*	-0.054	-0.149	-0.043
同居	51	アイデンティティ尺度	r	0.044	0.163	-0.145	0.115	-0.080
		自尊感情尺度	rs	-0.063	0.148	-0.122	0.052	-0.309*

ピアソンの単相関係数、またはスピアマンの順位相関係数

\*&lt;0.05, \*\*&lt;0.01

野間ら<sup>12)</sup>は、母に対して信頼や愛着といった肯定的な感情を抱いている時、娘の自尊感情は高くなることを報告している。青年期女性の自尊感情は、必ず同性である母の自分への評価を経由して自己評価するという構造が実証されている<sup>5)</sup>。母娘間で信頼関係が構築されている場合、娘は母に対して強い親しみ・愛着を抱くと同時に、母の愛情も信じる事ができるという相互的な想いが存在することになる。娘が母からの愛情を十分に感じられる信頼感は、娘の価値のある人間であるという自尊感情を育てる因子になると考えられる。

さらに、第一因子には母を支えたいという気持ちが存在する。青年期は親からの心理的離乳が獲得される時期であり<sup>14)</sup>、「母を支えてあげたい」という思いが強い娘は、母との対等な立場以上に母を支える側としての意識がうかがえる<sup>8)</sup>。母の精神的依存から脱却し、母に頼るだけでなく、自己の判断と責任のもとで行動できるようになることは、娘の自主性を見出し、アイデンティティの確立を促進すると考えられる。また、心理的離乳の獲得によって、娘は母から信頼され、頼られているという実感が得られるようになると考えられる。母による自己を信頼できる存在としての評価は、娘の自尊感情に強く影響する<sup>15)</sup>。よって、「母への支え」と娘の自尊感情も促進し合うと考えられる。

## 2. 母親との同別居が母娘関係とアイデンティティおよび自尊感情との関係に及ぼす影響

同居群と別居群の個別の群で、母娘関係尺度の各因子とのアイデンティティ尺度、自尊感情尺度の間で関連性がないかを相関係数を算出することにより検討した。その結果、母と別居している場合は、母娘関係尺度の第一因子「母への信頼・支え」とアイデンティティ尺度と自尊感情尺度の間に弱い正の相関が認められ、母を信頼する、支えたい気持ちが大きいほど、娘のアイデンティティ確立、自尊感情が高まると考えられた。初めて親元を離れる体験は、大学入学がきっかけになっていることが多いと思われる。大学生は親との関係性が大きく転換する時期である。経済的には親に依存している娘が多いだろうが、娘側では母から離れ、生活に関する様々な選択を自ら決定することになるため、母と同居している娘より別居している娘の方が、自主性や自律性を得る機会が多く、自分は自立しているという感覚を抱きやすいと思われる。また、進学を機に母と別居するようになって、それまでの生活で構築された母娘間の信頼関係は継続され、娘の一人暮らしの支えになっていると考えられる。さらに、第一因子には「母への支え」という要素も含む。自分の生活をある程度自立して行えるようになることは、母親を頼

っていた娘が、母親と対等な立場になったことを意識する体験でもあるだろう。「母への支え」は母親との対等な立場以上に母親を支える側としての娘の意識がうかがえる<sup>8)</sup>。一人暮らしを始める事は、料理・洗濯・掃除等の家事や金銭管理などで自律した自分を感じると同時に、これまでの母の大変さや母への感謝、尊敬の意を持ちやすい出来事でもある。そのため、母と別居している娘は、自分が母を支えたいという気持ちを抱きやすいかもしれない。

先行研究では、母親と別居している娘の中でも親密群の娘は希薄群、対立経験群の娘と比べて有意に自尊感情が高く、母親に親密感を抱く別居している娘は、たとえ一緒に暮らしていても、母親と精神的につながっているという愛着にも似た安心感が娘の自尊感情を高めると推測している<sup>12)</sup>。また、母と別居する事で物理的に母から離れ、個として精神的に自立し、自分一人で生活できているという有能感は、娘の自尊感情を高めると考えられる。よって、母親と別居している娘において、「母への信頼、支え」は自尊感情とも関連すると思われる。

同居している者では、母娘関係尺度の第四因子「母への依存」と自尊感情尺度との間に弱い負の相関も認められた。母親と同居している場合は、洗濯や掃除、食事の用意など母親が中心となっていくことが多いだろう。自分で行おうと思っても、母親の方が上手であり要領よく手際よくこなしていくため、母親とは同じようにはできないと降参したり、自分を卑屈に思うこともあるかもしれない。その一方で、母親との同居は経済的にも楽であり、便利で安楽な生活でもある<sup>16)</sup>。母親と同居している状況は、娘が母につい頼る・甘えてしまう状況になりやすく、「母への依存」から脱却しにくく、その結果、自分でできるという有能感や自分への信頼感を得る機会を持ちにくいと、自尊感情を低下させる一因となると考えられる。

青年後期から成人期初期における母娘関係の調査では、青年期群、成人期初期群、子育て群の3群とも別居している娘よりも同居している娘で「母への依存」が高く、母に依存した娘の青年期が長期化し、親から物理的に独立して別居していれば遂げたであろう自律が母親と同居していることで困難になることが示されている<sup>8)</sup>。本研究では大学生を対象としたが、大学入学や卒業時などの機会をとらえて、心理的な信頼関係を基盤にタイムリーに母娘の物理的、経済的な距離をもうけていくことが、娘のアイデンティティの確立や自尊感情の上昇には必要だと思われる。

## V. 結 論

本研究から母娘間の信頼関係が高く、母を支えたいと強く思っている娘は、アイデンティティ確立と自尊感情の両方において高いことが考えられた。また、母と別居している娘は、母と同居している娘よりもアイデンティティ確立、自尊感情が高いことが示唆された。さらに、母と同居している娘は母に依存しやすく、有能感や自分への信頼感、自信を得にくいため、自尊感情が低くなる傾向にあると考えられた。

## VI. 文 献

- 1) 信田さよこ：第 1 章 幸せな一卵性母娘はどれも似通っているが、不応な一卵性母娘は様々だ。一卵性母娘な関係. 1. 信田さよこ編, 主婦の友社, 東京, 1997, pp7-9
- 2) 高木紀子, 柏木恵子：母親と娘の関係 - 夫との関係を中心に -. 発達心理学 15 : 79-94, 2000
- 3) 藤田ミナ, 岡本裕子：青年期における母娘関係とアイデンティティとの関連. 広島大学大学院心理臨床教育研究センター紀要 8 : 121-132, 2009
- 4) 田中正：青年期男子における親の療育態度と自我同一性との関係. 名古屋文理短期大学紀要 27:1-4, 2003
- 5) 小川由希子, 山田智世・他：父親・母親の言葉かけと青年期女性の自尊感情との関連 - 影響を及ぼしているのは父親, それとも母親? -. 女子栄養大学紀要 42 : 35-41, 2011
- 6) 渡邊恵子：青年期から成人期にわたる父母との心理的關係. 母子研究 18 : 23-31, 1997
- 7) 北村琴美：過去および現在の母娘関係と成人女性の心理的適応性 - 愛着感情と抑うつ傾向, 自尊感情との関連 -. 心理学研究 79(2) : 116-124, 2008
- 8) 藤原あやの, 伊藤裕子：青年期後期から成人期初期にかけての母娘関係. 青年心理学研究 19 : 69-82, 2007
- 9) 下山晴彦：大学生のモラトリアムの下位分類の研究 - アイデンティティの発達との関連で -. 教育心理学研究 40(2) : 121-129, 1992
- 10) 星野命：感情の心理と教育. 児童心理 24:1445-1477, 1970
- 11) 桜井茂男：ローゼンバーグ自尊感情尺度日本語版の検討. 筑波大学発達臨床心理学研究 12 : 65-71, 2000
- 12) 野間あずさ, 牛尾恵・他：女子大学生における母娘関係が娘の自尊感情と抑うつに与える影響. 福島大学人間科学研究 21 : 35-47, 2013
- 13) 杉村和美：関係性の観点からみたアンデンティティ形成における移行の問題. 自己意識研究の現在. 2. 梶出叡一編, ナカニシヤ出版, 京都, 2005, pp77-100
- 14) 田島啓子, 雨宮由紀枝：育児意識と心理的離乳の関係. 日本女子体育大学紀要 39 : 79-86, 2009
- 15) 落合良行, 佐藤有耕：親子関係の変化からみた心理的離乳への過程の分析. 教育心理学研究 44:11-22, 1996
- 16) 信田さよこ：1.母が重くてたまらない - 様々な事例から. 母が重くてたまらない 墓守娘の嘆き. 19, 信田さよこ 編, 春秋社, 東京, 2015, pp49-56